

防災設備の使用テストを実施しました。ご協力・ご参加 いただいた居住者のみなさん、ありがとうございました。

災害時のトイレ汚水管のチェッカー (通る君)のテストを実施しました。

トイレ汚水管検査具(チェッカー)は、大地震等が発生した場合に、トイレ汚水管に大きな破損の有無を簡易的に検査することができるもので、破損が原因で上階のトイレ汚水が下階に漏れ出す等の危険を検知するものです。

過去の大震災では、汚水管の破損によって汚水が漏れ出す、あるいはつまりによって汚水が便器からあふれ出す等の事例が確認されています。

しかしながら、汚水管の破損については、大地震の直後に、すぐに専門の業者が駆けつけてきて確認してもらえない可能性は、極めて低いと考えられます。

このチェッカーは、マンションの汚水管の各縦系統の上階のトイレから、色を付けた水と黄色い玉を水で流し、地上の汚水桝まで、色水と黄色い玉が到達するかどうかを確認することで、汚水管に大きな損傷があるかどうかを検知するものです。

つまり、上階から流した水と玉が、地上の汚水桝に到達すれば、汚水管には致命的な損傷はないと判断できる、というものです。(ヒビなどの小規模な漏れは検知できません。)

当マンションで採用したこのチェッカー「通る君」は、ジェーディーエルエンジニアリング株式会社の製造・販売する商品で、東京都の平成27年度先進的防災技術支援事業助成の採択を受けた商品です。

今回は、マンション上階の7居住者の皆様にご協力いただき、トイレ汚水管チェッカーの「通る君」の使用テストを行い、上階各トイレから地上汚水桝までの到達時間を計測しました。

今回のテストにより、使用方法の確認、必要な水の量、平時におけるトイレから汚水桝までの到達時間、汚水桝でのモニタリング方法等、貴重な情報が収集できました。

テストにご協力いただいたみなさん、大変ありがとうございました。

チェッカーの「通る君」



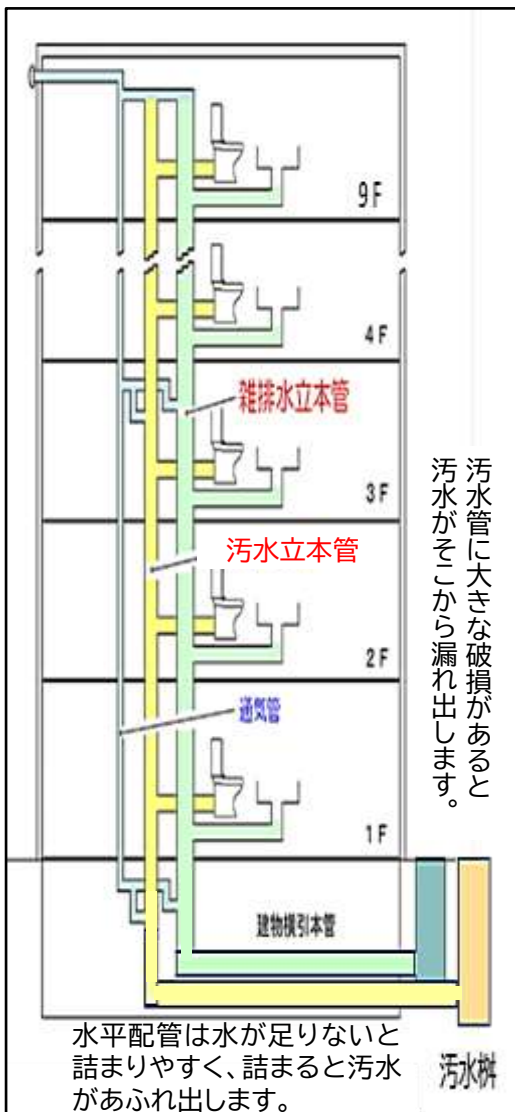
粉体部



固体部



チェッカーは消火ポンプ室内に保管してあります。



災害時の停電時を想定した地下受水槽からの 手動給水設備の稼働テストを実施しました。

災害時に停電が発生し、給水ポンプが停止し、停電の復旧に長い日数がかかる場合は、トイレを流す水が足りなくなるのが想定されます。

当マンションでは、地下の受水槽にある水を手動ポンプで汲み上げる設備を準備しており、想定貯水量1400リットルの水を、この設備を使用することで、各戸に約300リットル（トイレ約30回分）を給水することができます。

今回は、その給水設備を実際に組み立て、給水してみました。

給水設備の部材（ホースやパイプ等）は、受水槽がある地下室に保管してあることから、ロープによる吊り上げ、あるいは手渡しをしながら運び出しました。

今回は、メーカーのジェーディーエルエン지니어リング株式会社の方が立会いに来てくださいましたので、使用マニュアルを見ながら、構造や組み立て方の説明を受け、作業を行いました。各階で使用する部材には、階数の番号シールが付してあり、わかりやすくなっています。

地下受水槽の蓋を開け、ホースを入れ、エントランスホールまでホースを伸ばし、手動ポンプに接続します。

9階（上の階）から順番に、エレベーター前の東側階段手すり壁をまたぐように蛇口付きのパイプを設置し、上下階とホースでつなぎます。部材の安定のため、小型のコンクリートブロックを重石にして安定させます。

途中3階にも手動ポンプと小型のタンクを設置し、1階から汲み上げた水を、一時貯留し、3階から9階へと押し上げられるようにします。

エアが入らないよう、ゆっくりと手動ポンプを稼働し、給水したところ、無事9階までの給水ができました。

災害時は、これらの作業はみなさんにご協力をお願いします。水を運ぶバケツ等の容器は、各戸でご準備ください。

2022年7月31日、テスト当日の設置・給水テスト作業の様子です。



地下受水槽からホースをつなぎます。



地下入口は自転車置き場の奥です。



ホースはエントランスまで届きます。



エントランスまでちょうど長さで



手動ポンプに接続します。



9階(上の階)から設置します。



上階からホースを垂らし接続します。



3階にはタンクとポンプを設置します。



2階はネットの隙間に設置します。



排水管の横に隙間があります。

当日の作業には、

にご参加・協力いただきました。猛暑の中、乾燥・片付けまで、大仕事でした。大変にありがとうございました。